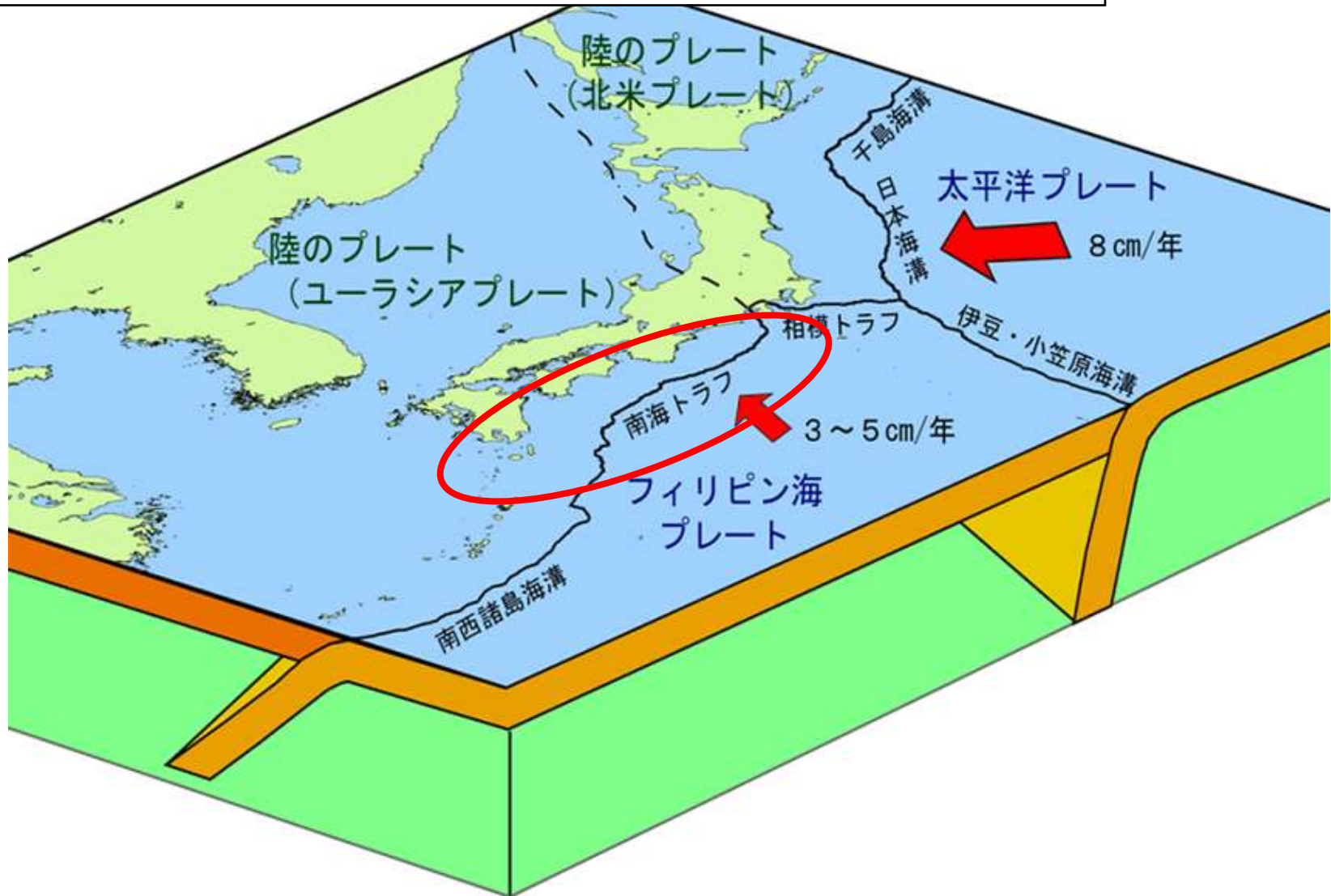


南海トラフ地震への備えについて

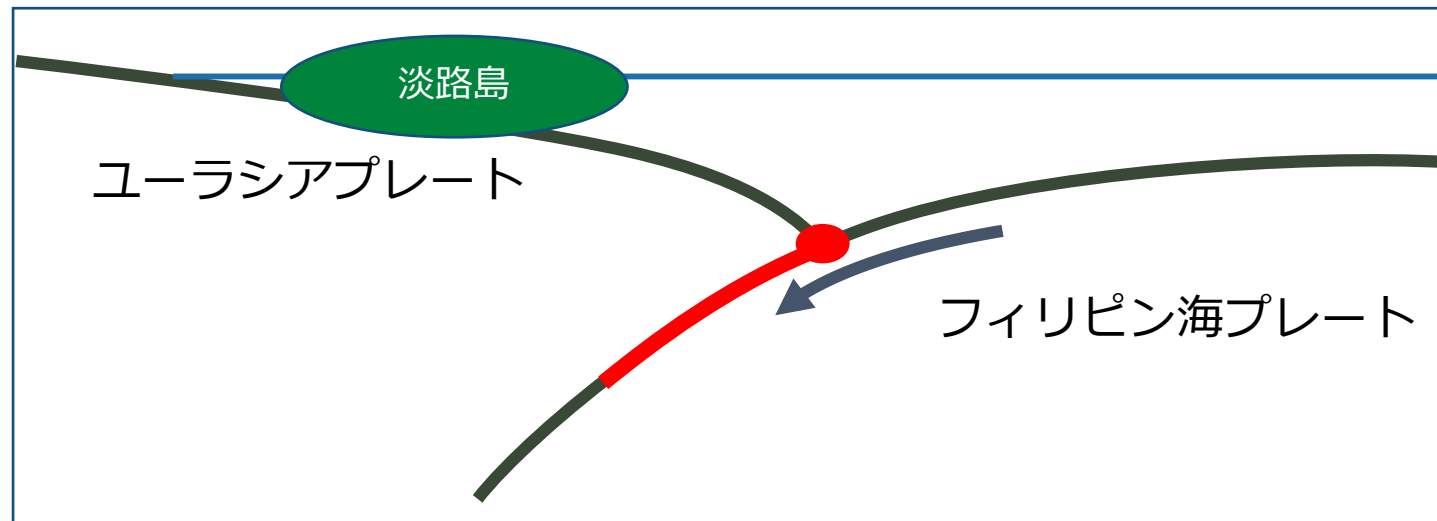
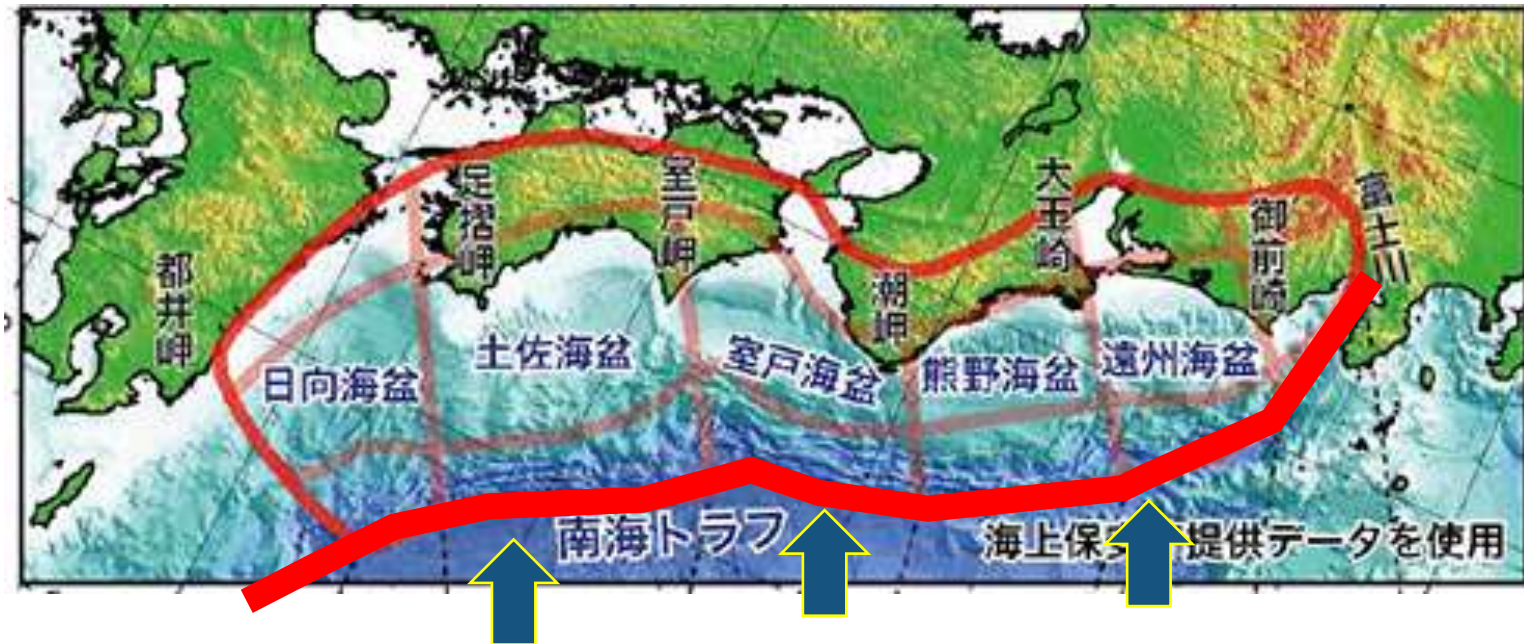
堺市 危機管理室 防災課

南海トラフとは

南海トラフは、四国の南に広がる深い溝（トラフ）
フィリピン海プレートがユーラシアプレートに沈み込む場所

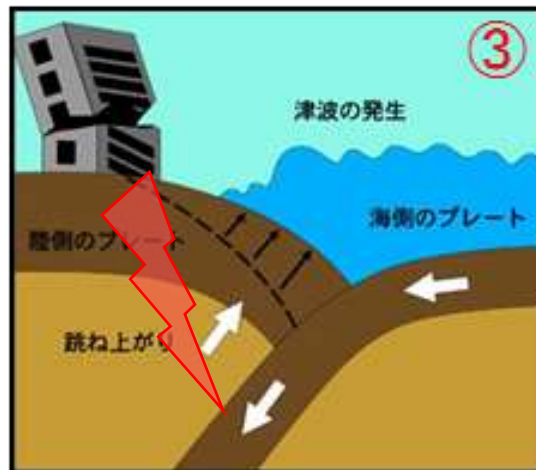
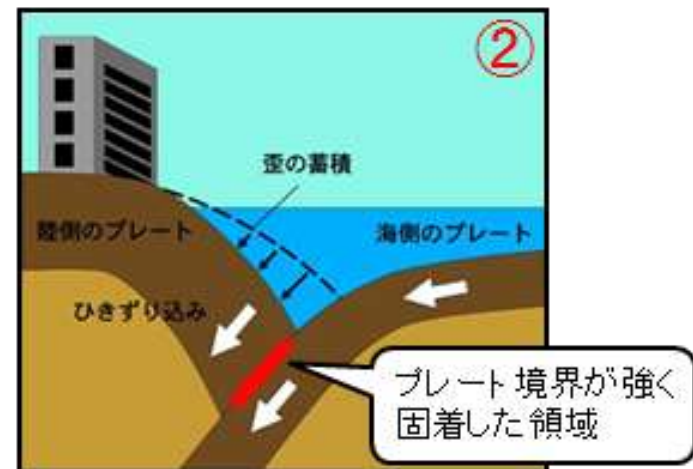
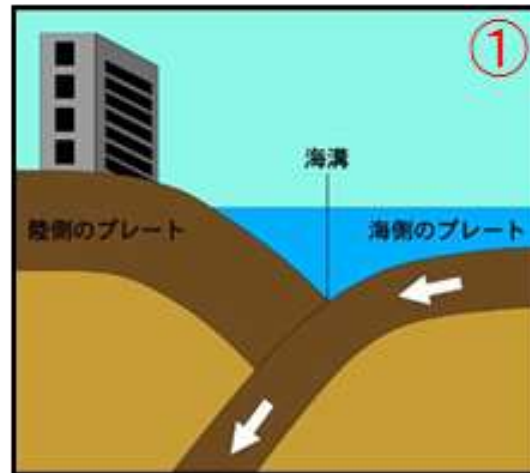


南海トラフ地震の発生する場所

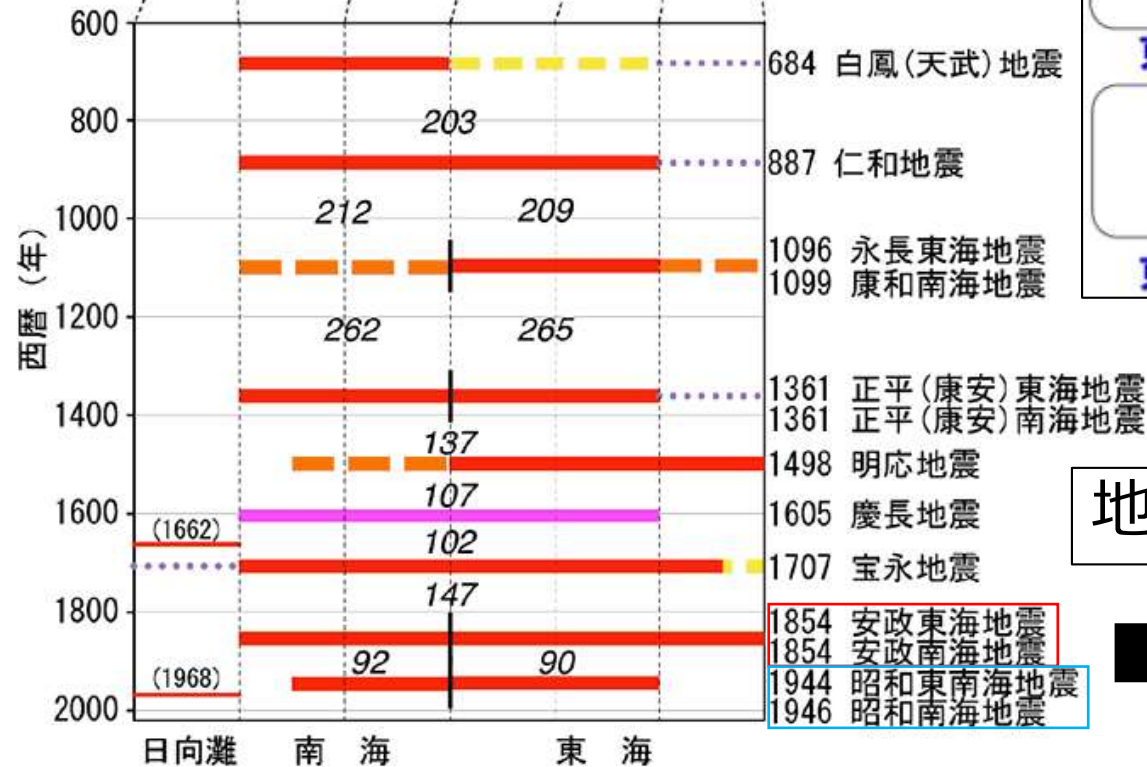
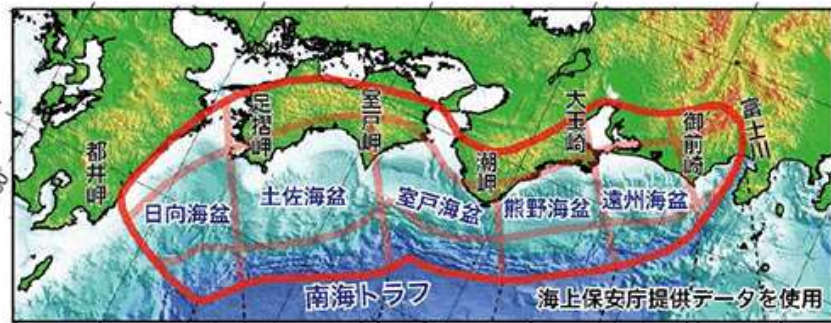


南海トラフ地震のメカニズム

南海トラフ地震の発生により、強い揺れと津波が発生します。



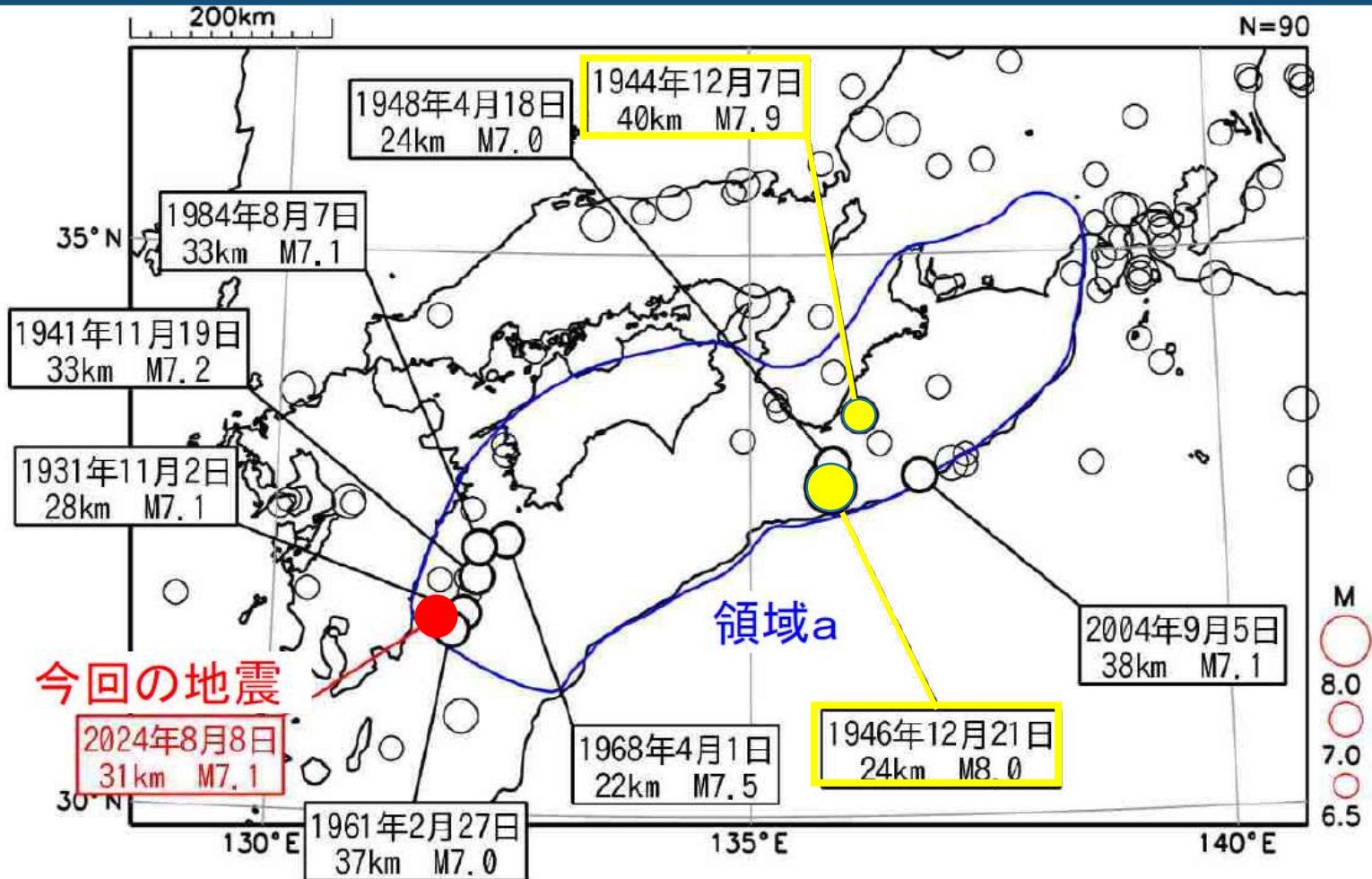
南海トラフ地震の発生の歴史



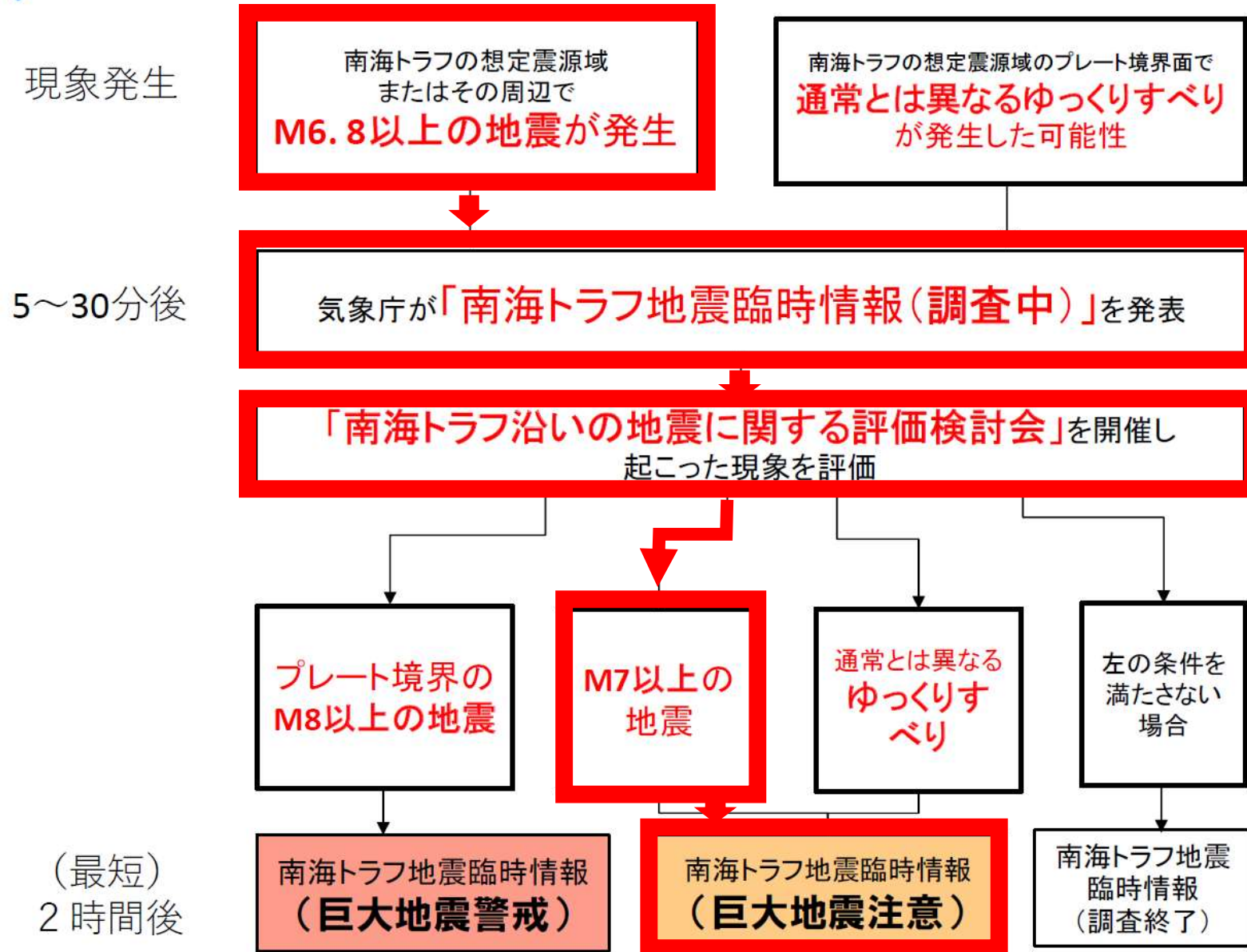
地震は一度で終わらないことも

8月8日に発生した日向灘の地震

2024年8月8日16時42分 **M7.1** 深さ31kmの地震が発生。最大震度 6 弱を観測
16時44分に四国から九州に津波注意報を発表。宮崎港で0.5mなど津波を観測
被害 負傷者 重症3名 軽症者15名 家屋被害 80棟



「南海トラフ地震に関連する情報」の基本的な流れ



指定基準の概要

- 震度6弱以上の地域
- 津波高3m以上で海岸堤防が低い地域
- 防災体制の確保、過去の被災履歴への配慮



指定基準の概要

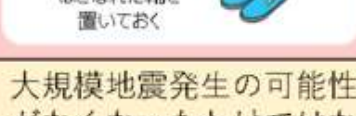
- 津波により30cm以上の浸水が地震発生から30分以内に生じる地域
 - 特別強化地域の候補市町村に挟まれた沿岸市町村
 - 同一府県内の津波避難対策の一体性の確保
- ※浸水深、浸水面積等の地域の実情を踏まえ、津波避難の困難性を考慮



大阪府は事前避難対象地域は指定されていない。

■ 特別強化地域の指定地域

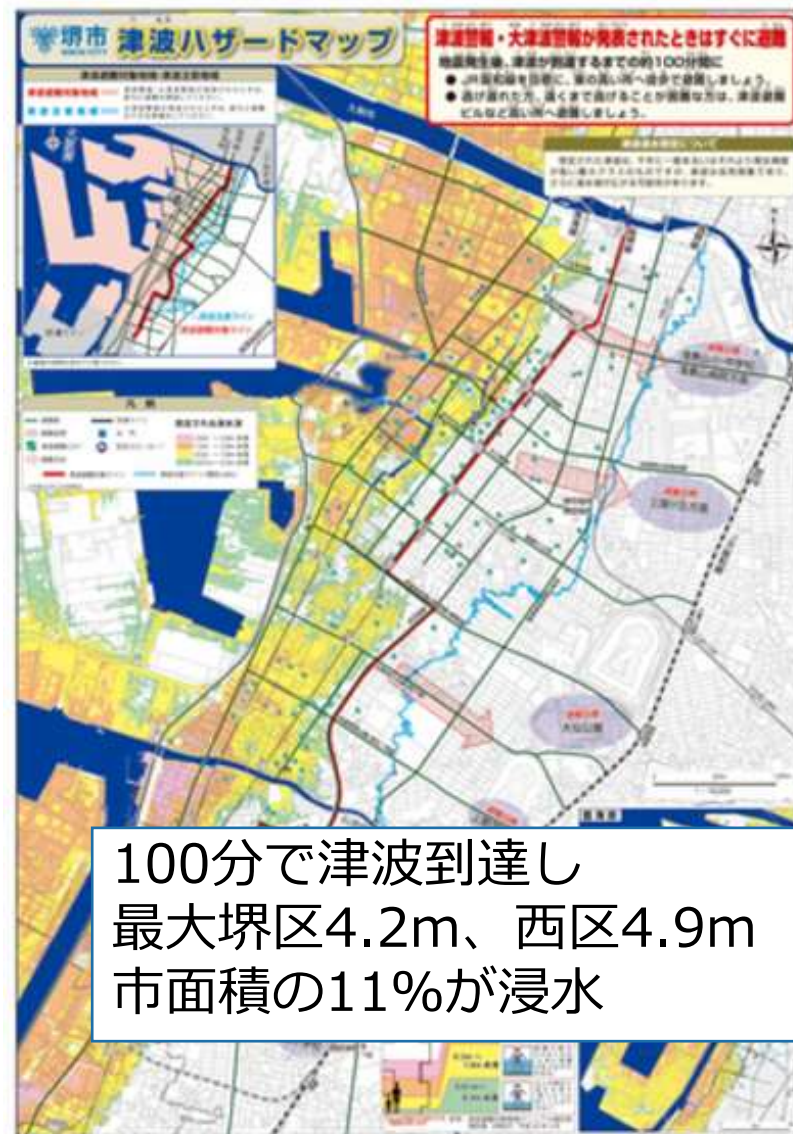
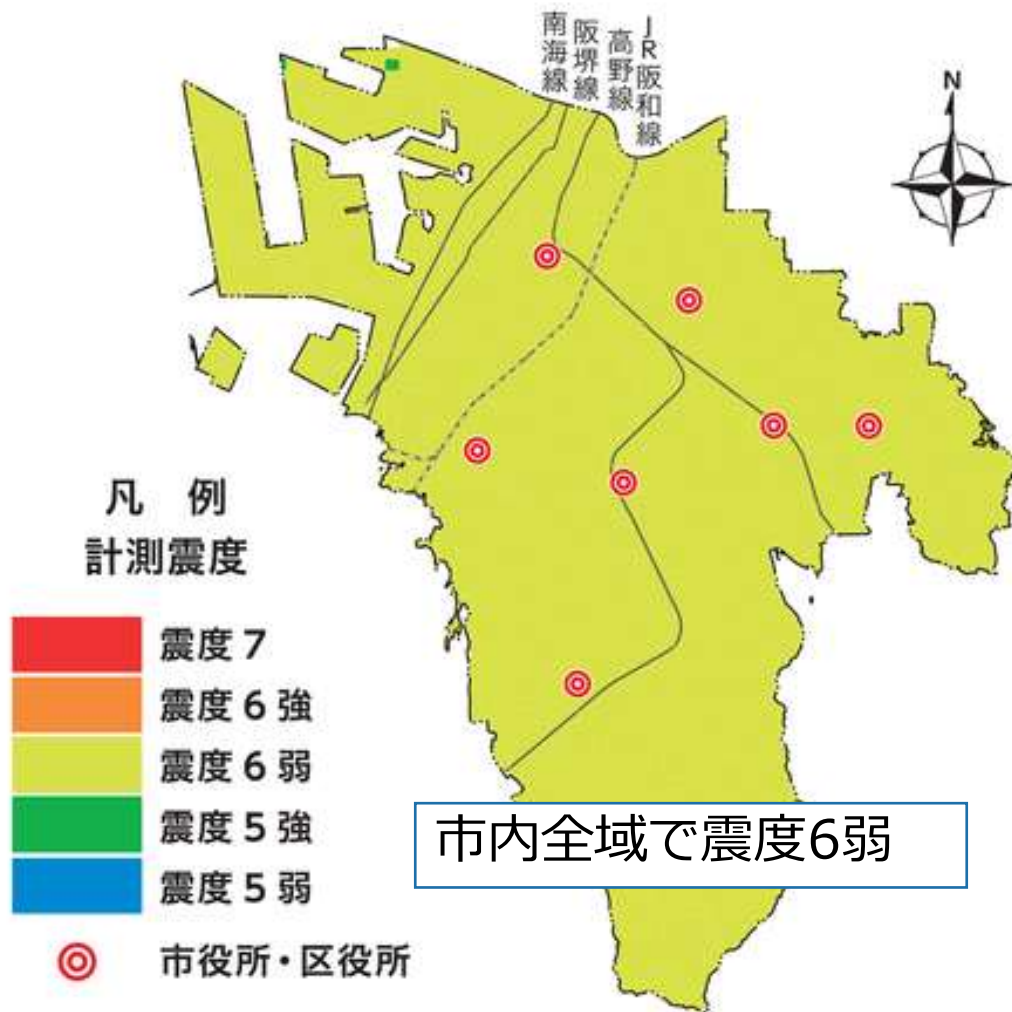
南海トラフ地震臨時情報による行動

地震発生から 最短2時間後	南海トラフ地震臨時情報 (巨大地震警戒)	南海トラフ地震臨時情報 (巨大地震注意)	南海トラフ地震臨時情報 (調査終了)
(最短) 2時間程度	・ <u>日頃からの地震への備え</u>の再確認に加え、地震が発生したらすぐに避難するための準備 ・ 地震発生後の避難では間に合わない可能性のある住民は事前避難 	・ <u>日頃からの地震への備え</u>の再確認に加え、地震が発生したらすぐに避難するための準備   	・ 大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意しつつ、地震の発生に注意しながら通常の生活を行う。   
1週間(※)	・ <u>日頃からの地震への備え</u>の再確認に加え、地震が発生したらすぐに避難するための準備	・ 大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意しつつ、地震の発生に注意しながら通常の生活を行う。 	
2週間	・ 大規模地震発生の可能性がなくなったわけではないことに留意しつつ、地震の発生に注意しながら通常の生活を行う。		

※ 通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合は、すべりの変化が収まってから変化していた期間と概ね同程度の期間が経過したときまで

南海トラフ巨大地震の被害想定

平成25年10月に大阪府が南海トラフ巨大地震の被害想定を発表



【人的被害】

- ・津波による死者 6,032人
 - ・建物倒壊等による死者 71人 計6,103人
 - ・堺市全域で約11万4千人の避難者が発生
 - ・堺市全域で約7万4千人が避難所へ避難
- うち、津波避難者は約4万9千人

【建物被害】

- ・堺市全域で約5万4千棟の家屋被害（全半壊）が発生

大阪府全体の被害想定（ライフライン・経済被害等）

項目			単位	内閣府公表	大阪府 今回推計
ライフライン	上水道	断水人口	人	約4,300,000	8,320,730
	下水道	機能支障人口	人	約7,200,000	327,129
	電力	停電軒数	軒	約4,500,000	2,341,756
	ガス	供給停止戸数	戸	約570,000	1,154,267
	固定電話	不通契約数	件	約1,400,000回線	1,415,000
	携帯電話	停波基地局率	%	10	48.5
交通施設被害	道路	被災箇所	箇所	約1,400	1,883
		道路閉塞率	%	—	5
	鉄道	被災箇所	箇所	約1,500	1,474
	港湾	係留施設被災箇所	箇所	約110	159
		防波堤被災延長	km	約4.9	14.3
	空港 ※1	機能障害		—	—
生活への影響	避難者	避難者数	人	約1,500,000	1,915,224
	帰宅困難者	帰宅困難者数	人	約120万～150万	1,463,128
	物資	飲料水不足量（1～7日間）	万ℓ	約1,500	8,931
		非常食不足量（1～7日間）	万食	約1390	3,220
		毛布不足量	万枚	約24	59
	医療機能	医療対応力不足数	人	—	70,481
災害廃棄物等		発生量	万t	約4,400～4,500	2,201～2,414
その他	エレベータ閉じ込め	停止エレベータ台数	台	約10,500	11,924
	危険物・コンビナート施設		施設	約50	※2
	文化財		箇所	8	5
	長期湛水		ha	—	4,055
経済被害	資産等の被害額		兆円	約24	23.2
	生産・サービス低下		兆円	—	5.6

○上水道

- ・発災直後は市内全域で断水すると想定
- ・発災1日後で約37%まで、発災約40日後にはほとんどの断水が解消

○下水道

- ・最大で約2,400人（全体の約3%）が利用困難になると想定
- ・発災7日後で2.3%まで、発災約1ヶ月後には機能支障が解消

○電 力

- ・最大で約78万軒（全体の49%）で停電が発生すると想定
- ・発災1日後で約25%まで、発災1週間程度で応急送電がほぼ完了

○ガ ス

- ・最大で約1万5千戸の供給が停止すると想定
- ・発災1ヶ月後には供給停止はほぼ解消

○固定電話

- ・ 最大で約5万件（全体の約53%）で通話支障が発生すると想定
- ・ 被災直後は輻輳により大部分の通話が困難
- ・ 発災後約 1 ヶ月程度で約1%まで解消

○携帯電話

- ・ 発災当日に最大で全体の53%の基地局が停波すると想定
- ・ 被災直後は輻輳により大部分の通話が困難
- ・ 発災後約 7 日程度で、約6%まで解消

○道 路

- ・ 197箇所被害が発生すると想定

☆被害額 府内全体で 28.8兆円

🔑 出来ることから取り組もう！

家具や家電の地震対策をしよう！

扉をふさぐ位置、寝る場所の周辺には倒れる家具を置かない。



飛散防止シート

俺の部屋、あかんやん！



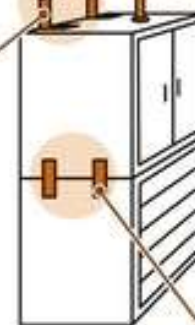
家具の転倒・落下を防ぐ！

突っ張り棒

シーリングライト
(天井固定)にする

チェーンで
固定する

し
字
金
具
で
固
定
す
る



つなぎ目は金具で連結する



落下を防ぐ
ストッパーと
開き戸留め金



テレビ台に固定する

非常持ち出し品

☑ 非常持ち出し品

非常持ち出し品は、避難するときに持ち出すものです。

持って運べるだけの必要最低限にし、リュックサックなど両手が使える袋に入れましょう。

- | | |
|---|--|
| ☐ スマートフォン（携帯電話） | ☐ ビニール袋 |
| ☐ 充電器 | ☐ マスク・消毒液 |
| ☐ モバイルバッテリー（電池タイプ） | ☐ 歯ブラシ・歯磨きシート |
| ☐ 懐中電灯（ヘッドライト） | ☐ 体温計 |
| ☐ 電池式ラジオ | ☐ 上履き（スリッパ、靴下など） |
| ☐ 薬（常備薬、服薬中の薬） | ☐ タオル |
| ☐ お薬手帳 | ☐ 衣類 |
| ☐ 非常食・水 | ☐ 貴重品（現金（小銭含む）、印鑑、通帳、健康保険証、免許証など） |
| ☐ 携帯トイレ | ☐ その他自分の生活に欠かせないもの（使い捨て哺乳びん、生理用品、紙おむつ、とろみ剤など） |
| ☐ コンタクトレンズ（予備の眼鏡） | |
| ☐ 軍手・手袋 | |



非常備蓄品

🔒 備える

☑ 在宅避難生活を支えるもの

非常備蓄品は、災害直後から混乱が収まるまでに必要なものです。最低3日間分、できれば1週間分以上の備蓄をしておきましょう。



- | | | |
|--------------------------------------|----------------------------------|---|
| ☐ 飲料水、生活用水 | ☐ 雨具 | ☐ 簡易食器 |
| ☐ 非常用給水袋 | ☐ 使い捨てカイロ | ☐ 簡易トイレ |
| ☐ 非常食 | ☐ 予備電池 | ☐ バケツ |
| （アルファ化米、レトルト食品など） | ☐ 生理用品 | ☐ 工具類（ロープ・ボールなど） |
| ☐ 携帯コンロ、ガスボンベ | ☐ 毛布 | ☐ 新聞紙 |
| ☐ ラップ、アルミホイル | ☐ なべ | ☐ 布ガムテープ |
| ☐ 衛生用品 | ☐ やかん | ☐ その他自分の生活に欠かせないもの |

地震への備え

